

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立神野小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。

したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問 番号	質問事項	本校 (%)	全国 (%)
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	76.4	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	82.1	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	90.3	91.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

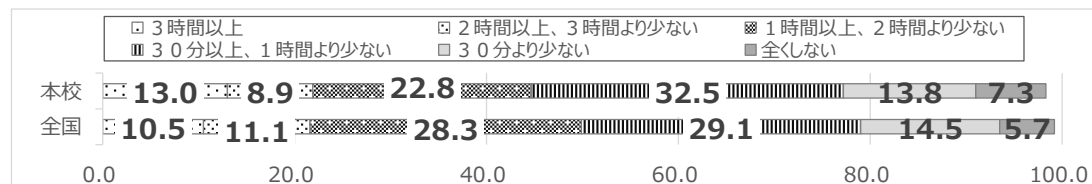
◎自分で立てた課題に対して、解決方法を自分で考えるなど主体的に学習に取り組むことができている。
◎一つの学習活動を振り返り、次の学習のめあて等を設定することができている。

●学習時間を見てみると、全国平均に比べ「3時間以上」の割合が多い反面、「全くしない」児童の割合も多くなっている。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	82.9	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	81.3	78.4

23 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	87.0	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	79.6	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	80.5	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	91.8	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎自分にはよいところがあるという自己肯定感が高い児童の割合が多い。
◎普段の生活で人や地域社会の役に立ちたいという奉仕の意識が高い児童の割合が多い。

●キャリア教育不足などのためか、将来像を思い描ける児童の割合がやや少ない。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.1	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	79.7	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

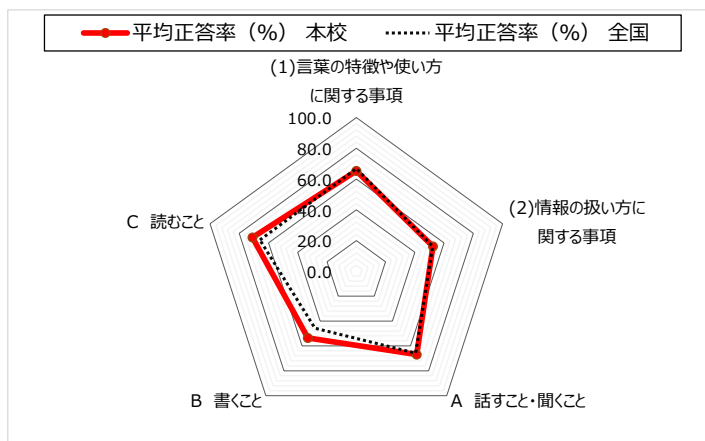
- 目的意識を持たせ、効果的な手立てを取った対話活動を仕組むことで、児童が考えを深めたり広げたりすることができるような授業を進めます。
- 児童が将来への夢や目標が持てるようなキャリア教育や興味が広がるような体験活動を進めます。

【ご家庭では】

- 子どもの話に耳を傾け、「どうしたの？」「あなたはどうしたい？」と考えを引き出す対話を大切にしてください。
- 機会を見つけて、様々な体験活動を行い、楽しかったり成功したりするなど経験させてください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	65.3	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	52.4	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	66.9	65.8
	B 書くこと	53.6	45.7
	C 読むこと	71.0	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	63.9	61.9
短答式	58.3	62.6
記述式	61.9	54.9

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 今回の調査で、「思考・判断・表現」が4.2ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの知識を活用する言葉の力であり、普段から、自分の考えを記述させたり友達と交流したりした成果が表れていると考えられます。

● 自分の考えの根拠となる情報を引用して読み手に意図が伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。何のために引用するのかという目的を明確にする必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3三 (2)	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	79.4	76.4
2三ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	78.6	80.0

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	38.1	45.2
2四	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	44.4	33.5

調査結果を受けて

【学校では】

○引用の役割を明確にしたり、引用部分と自分の考えを視覚的に分けたりするなど手立てを取った指導を行います。

○行事等で感想を書かせる際には、段落を意識させるなどの手立てを取ります。

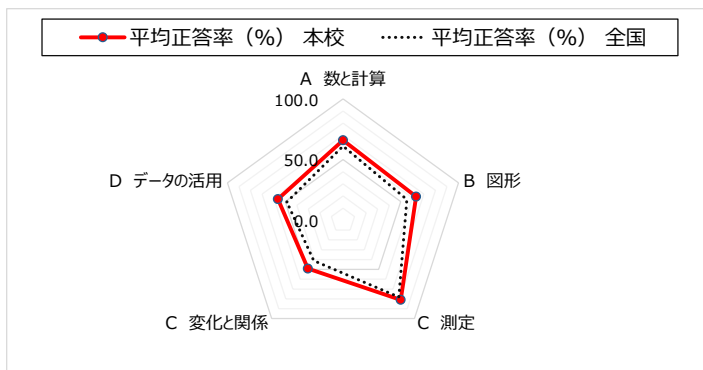
【ご家庭では】

○お子さんの話を最後まで聞き、「どうしてそう思ったの？」と考えの根拠をはっきりさせる対話を大切にしてください。

○読書を大切にいきましょう。時には、お子さんと一緒に読書に取り組むのも効果的です。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	65.9	61.1
B 図形	63.3	55.3
C 測定	81.0	78.1
C 変化と関係	49.2	41.1
D データの活用	56.3	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	61.0	56.0
短答式	66.9	59.7
記述式	56.1	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 今回の調査では、記述式の問題の平均正答率が、全国平均正答率を上回りました。自分の考えを、式や言葉を使って論理的に書く機会を増やすなどの授業改善の成果が表れていると考えられます。

● 「データの活用」の領域の、二次元の表から条件に合う数を読み取る問題の正答率が3割を切っていました。二次元の表を実際に作成する活動を取り入れるなどする必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3(1)	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	96.0	94.5
1(1)	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	85.7	72.7

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
4(3)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	29.4	17.9
2(4)	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	40.5	34.2

調査結果を受けて

【学校では】

- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 日常生活と関連付けながら、学んだことを活用する場面を充実させます。

【ご家庭では】

- 算数が好きになるには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。
- お子さんの算数ノートやテストをご覧になるときは、「この考え方がいいね」「そこに気づいたのすごい」「前より速くできたね」などの言葉掛けをお願いします。思考を褒められると、算数に自信を持ちます。